



ROTARY INTERNATIONAL

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 365



KO HIRASAWA



% MIYAKO HOTEL
AWATAGUCHI HIGASHIYAMAKU
KYOTO, JAPAN

No. 5 October 15. 1967

ガバナー月信 第5信 (昭和42年10月15日)

第365区ロータリークラブ

会長 並びに 幹事殿

国際ロータリー第365区ガバナー

平 澤 興

ロータリアンとしての あなたの資格を 効果的に

Make your Rotary membership effective

ホッジス R.I. 会長



白浜における

国際ロータリー第365区年次大会

恐ろしい台風の時節も漸く過ぎて、日毎に秋は深まりますが、いよいよ御隆勝のことと存じます。さて、この月の月信の最大のニュースと言えば、いわずもがな、10月2～3日の両日、田辺クラブをホストとし、白浜クラブをコ・ホストとして南紀・白浜町で開催された本年度の第365区地区大会であります。

さて、本年度のこの地区大会には従来と異った点が二つあったことが先づ指摘されます。その一は、前年まで殆んど大都市で行なわれ、地方都市と言っても福井市、大津市のような県庁所在地で開催されていましたが、今回は日本の三大泉都とは申しながらも、田辺市、白浜町を合せて人口僅か10万余の地方、白浜で行なわれましたこと。そ

の二は、従来、前夜懇談会と称して大会の前夜に会長・幹事の懇談会が催され、大会の提出議案の説明、開催地に対しての諸案件、次年度大会の等々について協議と懇談が持たれましたが、その日程の3日間を、今回は2日間に短縮して、初日の会長・幹事部に引きつづいて従前の懇談会が行なわれたことであります。ここに先づ登録委員会より発表された参加人員を記しましょう。

来賓20名 その家族11名

地区内 71R.C. 会員1309名 その家族 426名

地区外 31R.C. 会員 45名 その家族 28名

総計 102 R.C. 1839名という盛会でありました。

なお来賓としてお迎えしましたロータリアンは、ミラー R.I. 会長代理、松本 R.I. 理事をはじめとし、服部第369区ガバナー、難波第368区直前ガバナー、北村直前ガバナー、鳥養、柏原、山岸、秦、空地、森、村上、堀内、神野の各バスター・ガバナー並びに原田次期ガバナー・ノミニの諸氏でありました。

以下に大会プログラムを中心に筆を進めましょう。

■ 大会第1日 10月2日(土) 白浜会館

定刻 14:00 会場に響き渡るファンファーレとともに、大会は開幕されましたが、本大会におけるロータリー最大の感銘は、何と言ってもホッジス R.I. 会長の代理として遙々米国から本大会にご出席されましたチャールズ H. ミラー氏のメッセージでありました。これは、その深い内容とともに、直接本年度の第365区の活動指針ともなるべきものであり、またそれ自体がすばらしいものであるため、欠席を余儀なくされた会員のためにも、その全文を印刷しこの月信に添えることに致しました。

15:30 部門別協議会はそれぞれ会場を異にして開かれ、各部会とも真摯な討議の裡に時間切れを惜みました。

・クラブ奉仕(A)部会

(ロータリー情報、広報、雑誌、職業分類、会員選考)

リーダー (福井北) 坪川 健一氏

・クラブ奉仕(B)部会

(プログラム、出席、親睦、S. A. A., 会報)

リーダー (長 浜) 岡田 孝夫氏

・職業奉仕部会

リーダー (京都南) 北川貞次郎氏

・社会奉仕部会

リーダー (奈良) 今西清兵衛氏

・国際奉仕部会

リーダー (和歌山東) 吉田 豊氏

・会長幹事部会

リーダー (大阪) 塚本 義隆氏

(各部会のカウンセラーその他、記載省略)

この会長幹事部会において特に重要事項の説明があり、ただに会長幹事のみならず、クラブ例会等に於ても充分研究、協力するよう要望されましたので、それらの要点を摘記いたします。なお、これらの R.I. からの公式パンフレットは10月末頃までに届けられる由であります。

さて、毎偶数年に国際大会の一部として規定審議会が開かれますことは既に各位もご承知のことと存じます。明年のメキシコ市での国際大会はこの年にあたります。その際、R.I. 理事会から提出の規定改正案の中でも最も重視されている二つの案は、

(1) ロータリー・クラブ会員規定改正案(68—42)

会員規定を大巾に一本化し、会員の“種類”と言う名称の廃棄も実行しようという理事会の考え方。その理由として、長年に亘って、複雑化して行く会員資格規定、現在の姿は余りにも複雑すぎると指摘しています。また会員は、その職業の本拠地か、その居住地の何れかに基づいて入会出来るという新制度。一つの職業分類に3人まで会員を入会させることが出来るなど。以上のような実に画期的なものであります。

(2) R.I. 年会費の増額案 (68—24)

現行額、半年3弗を、半年4弗に増額する案。その理由として、現行年会費は過去16年間そのまま据え置かれているということ、世界的傾向の物価上昇、ロータリー企画の活潑化等々の事実を述べられ、この懇請には言わずもがなと賛意の拍手が力強く巻きおこりました。

その他、クラブの拡大と会員の増強問題、次年度会長の選任時期を早める勧告、地区年次大会の今後のあり方、日本万国博内ロータリー例会計画の進行状況などにつき説明と質問が熱心に交わりました。

小憩後、会長幹事懇談会が引き続きその場所で行なわれ、R.I. 会長代理ミラー氏、ガバナー、全バスト・ガバナーも同席、北村直前ガバナーがリーダーをつとめられ、大会第2日決議委員会（委員長京都R.C. 森下弘氏）より提出される6つの決議案の審議を行ない、全部異議なく可決された次第でした。

それ以前、部会に参加されない会員並びに家族は日本三大京都と呼ばれる白浜観光をバスを連ねて回遊され、19:00 本会場、白浜会館に再び全出席者参集、ホスト、コ・ホスト、両R.C.の会員家族の心あたたまる歓待をうけつつ大晩餐会がロータリーの友情と感激のうちにはじめられ、郷土の余興、倍賞千恵子さんの歌謡曲も楽しく、最後に「手に手つないで」を歌い喜び、初日のとぼりは静かにおろされて行きました。

■ 大会第2日 10月3日(土) 白浜会館

定刻 9:30 再開、「限りなき道ロータリー」が酒井美智男名ソングリーダー(京都R.C.)によってあざやかな初登場? 次に予定に従って部門別協議会報告が前日のリーダーによってそれぞれ要領よく然かも適確に告げられたあと、決議委員会報告、大拍手のうち何れも採決されましたが次のような6つの内容でありました。

- 第1号 R.I. 会長代理派遣に対する感謝の件。
- 第2号 ホッジス会長の1967~68年度計画に協力の件。
- 第3号 第365区直前ガバナー北村孝治郎氏に対する感謝の件。
- 第4号 1968~69年度国際ロータリー会長として選挙された東ヶ崎潔氏に対し祝意を表す件。
- 第5号 ホスト・クラブ及び協力団体に対する感謝の件。
- 第6号 Guide to Classification に関する件。

続いて資格審査委員会報告(和歌山R.C.藤沢元雄委員長)登録委員会報告(田辺R.C.長井利一良委員長)——前記——をうけた後、特別講演として京大名誉教授、宮地伝三郎理博の「本能と文化」のお話は動物生態学の研究に生涯を捧げられた碩学のご講演だけあって、平明なお話の中にも人間社会の基本的理解に資するところ極めて多く多大

の興味と感銘を与えられました。

午後、選挙委員会報告が山口善造委員長(大津R.C.)よりなされ——別掲記事参照——1968~69年度の第365区ガバナー・ノミネーにご就任された原田秀雄氏の謙虚なお態度のうちにも眉宇に決意のほどを深く示されたご挨拶は万雷の拍子呼び、その感激は垣塙にたぎるひと時でありました。

暫くして、会場がもとの静けさをとり戻した時、今は亡き今村、岡島バスト・ガバナーの外32名の物故会員に対し静かに敬虔な黙祷を捧げ心からご冥福をお祈り申したのでありました。

次にロータリー財団奨学生のご挨拶に移り、

アンドリューB・デンプスター君

(英国—大阪R.C.)

滝本正彦君(京都東R.C.—英国)の両君が、また交換グループ研究生のご挨拶を

佐山和夫君(田辺R.C.—米国)が、

またインターアクト・クラブのご挨拶は当地区として第3番目に生れた榎原学院高等学校のI.A.C.会長の速見博君が若者らしい力強い決意と今後の抱負と希望を述べ出席者全員から拍手の嵐の激励をうけて降壇、恒例の出席優秀クラブの表彰がこれにつづき、第一位 和泉R.C. 100% 第二位 舞鶴R.C. 100% 第三位 鯖江R.C. 100% 第四位 大和高田R.C. 第五位 近江八幡R.C. 第六位 和歌山東R.C. 第七位 橋本R.C. 第八位 五条R.C. 第九位 枚方R.C. 第十位 茨木R.C.。同率の場合、会員数の多いクラブを優先との掟が適用されたのも嬉しい話題。

プログラムはパンクチャルに進んだ 14:00, R.I. 会長代理へは超小型トランジスター・テレビ、同夫人へはこの地産の美しい真珠の首飾が記念品として贈呈され、北村直前ガバナーへは目録を贈り、深く感謝の意を表するとともにその労に敬意を捧げた次第でした。

ポピュラーソング「我は海の子」の合唱に一息を入れたあと、待望のパネル討議は、奥村竜三氏(大阪北)がそのリーダーにつづき、パネラーは奈良常五郎氏(大阪)、オーチス・ケリー氏(京都)、田口敏三氏(近江八幡)、テーマは〈国際親善とロータリーの役割〉、それぞれ経験深いリーダー、パネラーによっての活潑な展開は実に内容豊富で、示唆されるところが非常に多く、時に爆笑もおこ

り、興味と感銘を与えた時宜をえた企画と賞讃しきり。

いよいよ終幕も近く感ぜられる 15:15

ミラー会長代理は演壇にその巨軀を進めてご登壇、感想を実に堂々と、主として明年メキシコ大会に提出される議案を中心にR.I.会長と理事会の決意のほどを披瀝され、諸君の全面的な理解ある支持を与えられんことを祈ると。なおロータリーの前進途上においてこれらは非常に重要な一段階を画するものであると言っても敢て過言ではないと力説されたあと、この第365区の地区大会に惜みなき讃辞を贈ると結ばれました。

次に参加クラブ代表として最遠隔地の勝山クラブが選ばれ、ホスト・クラブ、コ・ホスト・クラブ並びに開催地への感謝の挨拶、また記念寄附の動議もあり異議なく可決。次期大会開催地の大阪南クラブ代表がホスト・クラブとしての抱負と決意を述べられ、来年の開催期日は10月19～20日、会場は大阪フェスティバル・ホールとの予定の旨の報告と挨拶をされ万雷の拍手のうちに降壇されました。

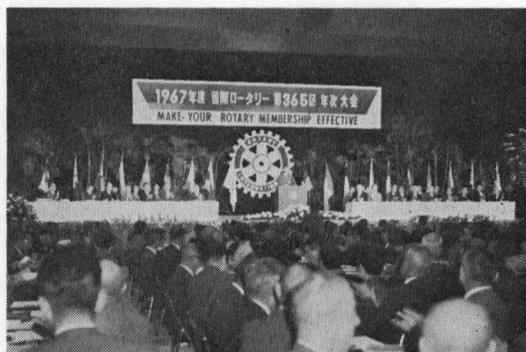
以上、不備ながらも書き連ねましたが紙面に余裕も最早ありません。あの純粋な童心と美しいハーモニーの三枝のコーラス、あの小旗を打ち振り心から歓送して下さった幼い元気な若者たちのあのフィナーレの閉幕はいまだに脳裏を去来、絶讃激励の言葉を述べたい私の胸中ですが……

最後に、例年のこととはもうせ、今回の地区大会でもホストたる田辺クラブ、コ・ホストたる白浜クラブの御尽力は筆舌につくし難いものでありますが、ここに謹んで第365区の会員一同とともに心から厚く御礼を申し上げます。真にありがとうございました。

地区大会における ガバナー・アドレス

本日ここに国際ロータリー会長代理 Charles H. Miller 御夫妻をはじめ、各位のご参列を得て、国際ロータリー第365区の年次大会を開催することは、まことに御同慶の至りに存じます。

今日ほど私はロータリアンの喜びと誇りとを感ずることはありません。我々はみな奉仕の理想に生きるロータリアンであります。ロータリー創立



以来正に62年、今やロータリーは世界の137カ国622,000余人に及び、人種、宗教、国境などを越えて、世界の隅々にまで拡がりつつあります。本日ここにお集りのロータリアンは凡そ1360人、その御家族を合すれば凡そ1850人であります。30数億という世界人口、1億という日本人口から考えれば、まだロータリアンの数は決して多いとは言われませんが、しかし、ロータリーが歩いた僅か62年の歴史から考えれば、確かに驚歎すべき数であり、我々ロータリアンはこの素晴らしい歴史の足跡に鑑みて、更にロータリーの増強に努めねばなりません。

諸君、私は諸君と共に、天を仰いで今日のこの幸福に心から感謝いたしたいと存じます。考えれば考えるほど、感謝すべきことは余りにも多いのでありますが、今日は五つの幸福を指摘するに止めましょう。五つの幸福とは、第一に人間たるの幸福、第二に健康たる幸福、第三に職業に成果を持つ幸福、第四に家庭の理解を持つ幸福、第五にロータリアンたるの幸福であります。

第一の人間たる幸福などは一見余りにも平凡に思えるかも知れません。しかし、十数億年の生命の流れの中で、その頂点たる人間に生れて来たということほど、偉大な奇蹟がどこにありましようか。我々はこの偉大な奇蹟に慣れ過ぎているのでありますが、この奇蹟は今日の最高最新の科学を以てしても、とてもまだ解きあかずなどということの出来ない奇蹟であります。人間は他の動物の如く、ただ環境に動かされて生きるだけではなく、環境に順応しながらも、次元の高い思索と精神生活とによって、たえずよりよき環境、よりよき社会をつくり出そうと努力しているのであり、ロータリー活動も正に素晴らしいそういう努力の一つで

あります。十数億年の生命の歴史の中で、直立猿人の出現からは約50万年、現代の人間、Homo sapiens が出現してからは約5万年、人間がやや正確な記録の歴史を持つようになってからは、約5千年、文芸復興期からは約5百年前後に過ぎないのでありまして、人類の将来にはなお洋々たる前途があると言われましょう。

第二に健康たるの幸福であります、元気であればこそ、今日のこの地区大会にも出席ができたのであります。これも一見平凡のようですが、決して平凡どころではなく、考えれば考える程、不思議なことであります。肺も心臓も、我々の知らぬ間に、働いているのであり、胃腸も肝臓もそうであります。いわば我々は、こうした内臓の奉仕によって生きておるのであります。一見自分の工夫で生きているようではありますが、こうした内臓の働きは生れた時、そのまま大自然から我々人間に与えられているのでありまして、決して自分で特に工夫をして心臓を動かしたり、肺を動かしたりしてはおりません。知らぬ間に働く内臓の奉仕のおかげで生きているのでありまして、そういう意味では生きるということは実は、生かされて生きるだけでも言わねばならぬかと存じます。

奉仕の理想に生きる我々ロータリアンが、実は内臓の奉仕によって生かされて生きているということは、まことに面白いことであります。しかし人間としてはこの肉体的な生命だけでは駄目なのでありまして、この第一生命の上に、特に人間に与えられた第二の生命たる高い精神的生命を充実してこそ、始めて人間としてのつとめを果たしたとも言われるのであります。考えて見ると、奉仕の理想に生きるロータリアンの生活は、それ自体人間に与えられた最も尊い仕事の一つのように思われます。

第三の幸福は、諸君が、それぞれの職業に成功され、繁昌されている幸福であります。もとより諸君のお仕事はいろいろで、必ずしも十分に満足したり、安心したり出来ない方もあるかも知れませんが、それにしても、この大会に出席できる余裕をお持ちになるということは、そのこと自体大いに謝すべきこととございましょう。二本の脚があっても不平をいう人もあり、片脚でも、いや脚がなくても感謝をしている人もあります。目が見

えても不平をいう人があり、目が見えなくとも感謝している人もあります。それは心の深さの問題ではないでしょうか。

第四の幸福は、よきロータリアンたるには、どうしても家庭の理解と協力が必要かと存じますが、うっかりすると忘れ易いこういう幸福にも深く感謝したいものであります。わけても今日お元気なご夫人やお子さんたちとご一緒に出席のロータリアン諸君には、私は心からの祝福と御礼とを申しあげたいと存じます。言うまでもなく共同社会は、先ず家庭生活がその出発点であり、奉仕の理想に生きる我々ロータリアンは、よき社会人たる前に先ずよき家庭人になりたいものであり、よき家庭人たらずしては、とてもよき社会人にはなれまいと存じます。しかし、同時によき社会人たるためには家庭の理解も是非望ましいものであり、社会につながる家庭が、ロータリアンその人のみならず、家庭ぐるみでロータリーの奉仕の理想を理解し、協力して戴くことになれば、その家庭そのものの生活が奉仕と感謝の生活となり、家庭の幸福には期して俟つべきものがあると存じます。ロータリーは先ず家庭から、そして家族の一人一人からということになるのではないのでしょうか。

ロータリアン諸君、我々はむずかしいロータリーの規則を説く前に、先ずよき家庭人となるように努めましょう。よき夫、よき父、家庭のすべての人々から愛され、尊敬されるような人間になるように努めましょう。これは決してなまやさしいことではありませんが、祈りのあるところには道があります。御家庭でも我々の気持ちを察して、今後ともますますご協力下さい。

第五の幸福は、現在ロータリアンとして、栄光に輝くロータリーの会員たることであります。ロータリーは御承知の如く、地域における各職業の代表たるべき人を厳重な資格審査を経て、こちらから入会をお願いするのでありまして、普通の会の如く、会費さえ出せば入会出来るものではありません。こうして厳重に選ばれた地域の人々を会員として、各職業を通じて、先ず地域社会に、この地域社会から国家、更には国家を超えて世界社会に、人類全体に奉仕しようというのが、我々ロータリアンの理想であり、生活であります。今こそ、我々は超我の理想を心深く噛みしめ、その実

行に全力を傾倒いたしましょう。

諸君、我々は何たる幸福ものでありましょう。以上あげた五つの幸福は、今ここにいる我々のすべてが持っているのです。とかく人間はこうした身についた現在の幸福は忘れがちで、充分その幸福を味あおうとしませんが、せめてロータリアンはそういう表面的な生活ではなく、もっと静かに、そして深く我々自身を内面から眺めたいと存じます。

ロータリー62年の歴史を通じて、しみじみ感じるものの一つは、理想と現実との調和であります。ロータリーは常に前向きな大きな理想を持ちながら、しっかりと大地に足を付けて前進しつづけて来ましたが、これはロータリーの創設者ポール・ハリスを始めとして、それにつづく偉大な先輩たちのおかげであります。我々は頭を垂れて、こうした偉大な先輩たちの組織力と生命力とに心から敬意と感謝とを捧げましょう。

諸君、しかし、ただ感謝をしたり、よろこんだりするだけではまだ不十分であります。我々はこの感謝と幸福とを実行の裏づけによって、更にロータリーの成長と前進のために捧げねばなりません。ご承知の如く現在 R. I. 第365区はクラブ数71、会員数約4150人です。我々はこのに至った今日までの成長を喜ぶとともに、更に一段と逞しい努力によって、質量両面に亘って、わが第365区のロータリー拡大と成長とに邁進せねばなりません。よき人を選び、よき地域を選んでロータリーの増強をはかるということは、ロータリアンが更にロータリー入会によって人間的に成長を遂げ、その地域社会の前進に一段と貢献するという意味において、それはそのまま地域社会の向上と幸福につながることにあります。

諸君、我々は何とかして、少しづつでもよいから日々成長するように努力いたしましょう。個人として、家庭人として、職業人として、国際人として、世界人として成長したいものであります。しかし、こうした理想は突然達せられるものではなく、着実な今日の生活から始まるのであります。しっかりと足もとの現実を凝視し、大地に足を踏みしめて、今日の生活を生かしましょう。機会があるごとに私が諸君に対し、また私自身に対して叫んで来ましたように、我々はただ口先だけの

ロータリアンではなく、ロータリーをからだに付けてこれを日々の生活の中に実現いたしましょう。

最も危険なのは、かるく文字だけを読んで分かったつもりになることであります。真に分かるということは、実になかなかむずかしいことであります。分かるという言葉の中には、(1)分かったつもり、(2)真に分かる、(3)その実行などいろいろの段階がありますが、陽明学などでは、知識が実行によって裏づけされて始めて分かったと言えるのだと説くのであります。なるほど知行合一のこの考え方は誠に深く、ロータリーにおいてもその通りだと思っておりますが、我々はただロータリーを日々の生活の中に生かして、楽しく、しかも稔りの多い生活を送りましょう。

諸君、奉仕を理想とするロータリーの心は不変であります。本年度のホッジス R. I. 会長のメッセージはいかにも具体的に、この理想を表現して余すところがありません。これはホッジス会長のみより多いロータリアンとしての経験と、ホッジス会長その人の人柄と英知から逆しり出たもので、ホッジス会長その人を深く知れば知るほど深い味が出るのであります。ホッジス会長の言われる如く、今こそ我々は、いよいよ覚悟をあらたにし、ロータリー活動に積極的に参加し、各自の職業に成功してその指導力を発揮し、また各自の地域社会や日本に忠誠を捧げてあらゆる機会にそれに奉仕し、更には他国の人々の問題にもよく通じて国際社会の理解と奉仕に献身したいと存じます。ホッジス会長のメッセージの全体として強く感ぜられることは、その逞しい積極性であります。その表現はまことに調和的であります。特に忘れてならぬことはこのホッジス会長の強い積極性であります。去る8月5日京都の国際会館で行き届いたモデレーター神野太郎氏の御指導の下で行なわれたリーダーシップ・フォーラムなどもその現れの一つであります。その趣旨については直接参加された会長、委員長等はもちろん、既にクラブ全体としても検討努力中のことと存じますので、フォーラムの詳細についてはここでは改めて繰り返しません。しかし、クラブの増強、世界社会奉仕等を始め、クラブ活動の全般に亘り、本年度は格別の御精進をお願い致します。

たしかにホッジス会長の言葉には、表面の響き

以上に深く、広いものがあります。小さな行きがかりや感情に囚われずに、大きく温かく世界を感じとる世界的センスと世界的善意とがそのうしろにあります。もとより世界的組織たるロータリーの会員は、本質的にはその第一条件としての世界的センスと世界的善意とがあろうかと存じますがこれは口でいうほど簡単ではありません。お互によきロータリアンたるために、何とかして一日も早くこうしたものを身につけて世界的なおとなになりましょう。

本日はこのあとに R.I. 会長代理ミラー氏による R.I. 会長メッセージや、部門別協議会、会長幹事懇談会等がありますが、どうぞロータリー活動に関する活潑なご検討を賜わり、それを遅しく第365区の今後の活動に資し得ればまことにしあわせに存じます。ありがとうございます。

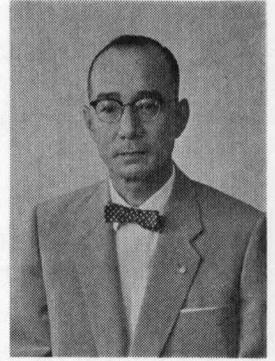
○ ミラー御夫妻お元気に離洛

当地区年次大会に、その使命を無事はたされたミラー-R.I. 会長御夫妻は、大会終了直後、R.I. 理事松本兼二郎氏と共に、紀北の国道24号線を一路奈良へと疾駆され同夜奈良ホテルに御一泊。翌日法隆寺、東大寺などの古寺、古蹟を歴訪されたあと夕刻ご入洛。都ホテル到着後、暫しガバナー事務所へ憩われた後、同ホテルにご投宿。京都ご滞在中は表千家家元をはじめとし、それぞれロータリー経営の陶芸、美術、七宝等の家々を訪問、また洛北、洛西の秋色をも暫し観賞され、夜は夜とて、京都市の5R.C. 共催による東山「土井」での歓迎晩餐会にご出席、最後の10月6日はたまたまご宿泊の都ホテルに例会場をもつ京都東 R.C. の例会日が金曜日と気づかれ突如ご予定を変更、松本理事と共に例会出席、15:18この長期ご多忙の日程にも少しの疲労をしめされず、お元気そのもののお姿で新幹線にご乗車、離洛東上されました。

○ 原田秀雄氏次年度ガバナー・ノミニーに決定

既に北村直前ガバナー月信第12号にてご高承の通り、R.I. 細則第12条第5節(ハ)に基き、大阪北R.C. 会員、原田秀雄氏が1968～69年度第365区ガバナー被指名者たることを宣言されていましたが、その後選挙をまたずして合法的に決定いたしました。

就ては、過日地区大会に於て同氏を正式に1968～69年度第365区ガバナー・ノミニーたることを確認するとともに、同氏より就任のご挨拶をいただきました。また同時にメキシコ市における本年度の国際大会規定審議会への当地代表の選出についても同氏への懇請がなされ、これまた同氏のご承諾を得て決定いたしましたことは当地区として実にその人を得たことでご同慶に堪えません。



原田秀雄氏略歴

生年月日	明治37年2月6日
本籍	東京都港区南青山6-12
現住所	神戸市東灘区住吉町池床
学歴	大正15年3月 東京帝国大学工学部卒業
職歴	大正15年4月 海軍技術研究所入所 昭和3年3月 同所退所 昭和3年3月 株式会社大阪鉄工所(現日立造船)入社 同 11年7月 同社退社 同 11年7月 大阪帝国大学助教授に就任 同 17年3月 同教授に就任 同 29年6月 同工学部長に就任 同 32年6月 同工学部長を退任 同 42年4月 教授退官に伴い名誉教授に就任 同 34～40年 関西造船協会々長 同 38～40年 社団法人造船協会々長
ロータリー歴	昭和27年12月 大阪北 R.C. 創立会員 同31年7月 大阪北R.C. 会長に就任 同40年1月 大阪北R.C. シニア・アクティブ会員に編入、今日に至る

○ 岡島美行前ガバナーの御急逝を悼む

まことに青天の霹靂とは、こういうことをいう